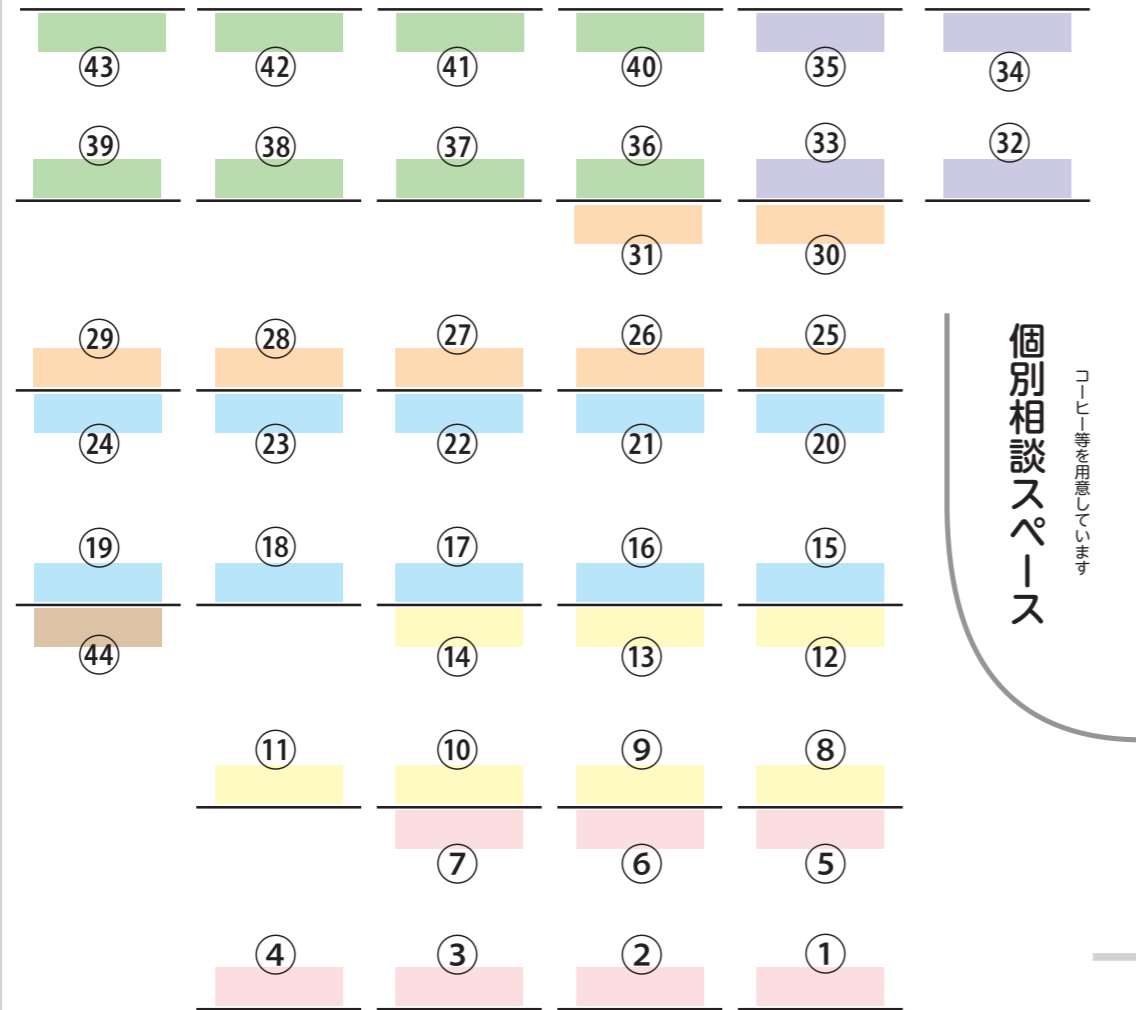
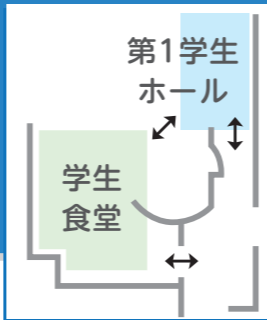


フロアマップ

公立諏訪東京理科大学 学生食堂(3号館1階)



個別相談スペース

コピー等を用意しています

入口

- ①～⑦ 情報システムコース
- ⑧～⑭ 知能情報通信コース
- ⑮～⑳ 機械理工学コース
- ㉑～㉓ 電気理工学コース
- ㉔～㉖ 共通・マネジメント教育センター
- ㉗～㉙ 地域連携研究開発機構
- ㉚ 産学連携センター



第2回 諏訪理科×企業 マッチングフェア

2026年度

日時 2026. 8/5 (水) 13:30～

場所 公立諏訪東京理科大学 学生食堂(3号館1階)

参加費無料 / 入退出自由

この度、第2回「公立諏訪東京理科大学 研究シーズマッチングフェア」を開催いたします。本フェアは、諏訪圏ものづくり推進機構との連携により、公立諏訪東京理科大学にはどのような研究者(教員)が在籍し、どのような研究・技術開発に取り組んでいるのかを、地域の産学官金の皆様に広く知っていただくとともに、新たなマッチングや交流の機会を創出することを目的としています。昨年度の第1回開催では、多くの皆様にご来場いただき、研究者との活発な意見交換や交流が行われました。今年度も、研究シーズの展示・紹介に加え、共同研究や技術相談の機会をご用意しております。ぜひ、この機会にご来場いただき、研究者(教員)と直接交流し、本学の研究シーズをご覧いただくとともに、新たな連携のきっかけとしてご活用いただければと思います。

タイムスケジュール

	学生食堂	第1学生ホール
13:30	13:30～14:00 オープニング	
14:00	14:10～16:30 ポスターセッション	
14:30		14:30～14:45 産学連携事例紹介① (休憩)
15:00		15:00～15:15 産学連携事例紹介② (休憩)
15:30		15:30～15:45 産学連携事例紹介③ (休憩)
16:00		16:00～16:15 産学連携事例紹介④
16:30	※研究者および研究室の学生から研究内容の紹介を行います。 ※地元企業との連携事例を実際に行っている教員より紹介します。	



第2回 2026年度 諏訪理科×企業 マッチングフェア



テーマ一覧 35 研究室 60 テーマ+6 研究部門

コース	テーマ	職位 氏名	ブース番号
情報システム コース	・瞬き数制御によるドライアイ予防に関する研究 ・インタラクション必要性に基づくメッシュ・Gaussian Splatting ハイブリッド表現によるテキスト駆動 VR シーン生成	教授 山口 武彦	①
	・ハルシネーション抑制のための議論型マルチエージェント ・環境複雑性と報酬密度の動的制御に基づく 3D 自律エージェントの深層強化学習手法の検討	教授 山田 哲靖	②
	・地すべり崩壊の発生箇所予測のためのリアルタイム解析システムの研究	准教授 菊地 輝行	③
	・葉脈を数式で表せるか？ — シアレット係数を用いた構造定量化の試み ・位相差顕微鏡画像におけるハローおよびシェードオフを考慮したウェーブレット変換による微生物輪郭抽出	講師 深谷 将	④
	・RTK-UAV を活用したスマート採石場管理システムの開発 ・UAV・GIS による道路インフラ防災支援技術	助教 伍 潔玲	⑤
	・生成 AI が生成する動画の識別技術 ・LLM を用いたディスカッション貢献度評価に関する研究	助教 柳原 貴明	⑥
	・機械学習を用いた動物行動解析とアニマルウェルフェア支援 ・機械学習を用いたスポーツ動作解析とパフォーマンス向上支援	講師 Niken Martono	⑦
	・デジタルツインを利用したセンサレス群ロボットのリモート制御	教授 市川 純章	⑧
	・正常を知るだけで異常がわかる — IoT 音響診断 A システム I の開発 ・画像処理工学 × 医療 AI — 造影剤不要で大動脈解離を診断する AI システムの開発	教授 田邊 造	⑨
	・歩行解析に基づく高齢者のフレイル予測に関する研究	教授 水野 秀之	⑩
	・高齢者及び障害を有する人などの支援のための DX ソリューション技術の研究開発 ・生体情報に基づく革新的ソリューション技術の研究開発	教授 清水 俊治	⑪
	・Private LoRa を用いた双方向無線通信システム	講師 征矢 隼人	⑫
	・VR× スポーツトレーニング — VR 環境から実環境への技能転移に関する研究 — ・VR× 交通安全 — VR 技術を用いた運転行動分析と交通事故リスク低減方策の検討—	講師 松田 勇祐	⑬
	・超低消費電力センシングを実現するイベント駆動型電子回路技術 ～ IoT・ウェアラブル・医療機器向け信号変換回路の研究～	講師 松野 隼也	⑭
	・燃焼を科学する — カーボンニュートラルから宇宙まで ・新規早期着火検知システムの開発 ・初期消火に有効な吸引消炎システムの開発	教授 今村 友彦	⑮
	・カーボンナノチューブロープの力学変形を利用したエネルギーおよび物質変換技術の開発 ・高性能磁石・磁気デバイスに向けた六方晶フェライトの機能開発	教授 内海 重宜	⑯
	・ドライバの負担の少ない安全なブレーキ・ハンドル操作手法の研究 ・中山間道路における自動二輪車の運転挙動の分析	教授 國行 浩史	⑰
	・修正目標軌道を使ったシリアルサーボマニピュレータの軌道追従制御 ・周波数整形法による柔軟構造物の準最短時間位置決め制御	教授 星野 祐	⑱
	・空モビリティ電動化技術の研究開発 ・超微細気泡（ウルトラファインバブル）技術の実用化	教授 雷 忠	⑲

コース	テーマ	職位 氏名	ブース番号	
機械理工学 コース	・宇宙探査機の軌道設計 ・宇宙軌道力学分野の卒業研究	准教授 大島 健太	⑳	
	・変圧器用絶縁油の燃焼性評価に関する研究 ・ニオイ変化による早期火災検知器の開発	准教授 上矢 恭子	㉑	
	・微小球反発試験機を用いた金属材料のヤング率測定 ・球体衝突に基づく金属材料の降伏応力推定法に関する研究	講師 伊藤 潔洋	㉒	
	・自己構造を利用した移動ロボット群による不整地軟弱地盤における滑り抑制	教授 藤原 大佑	㉓	
	・流れ場中における磁性ナノ粒子の挙動解明を主眼とするシミュレーション研究 ・磁性ナノ粒子凝集体の磁気制御技術構築を主眼とするシミュレーション研究	助教 山ノ内 雄渉	㉔	
	・電気理工学 コース	・土壌微生物の代謝活性を指標にした土壌評価および土壌改良資材の開発	教授 来須 孝光	㉕
	・ソーラーマッチングにおける光環境の評価に向けた多点分光放射計の開発 ・インクジェット技術を活用した有機薄膜太陽電池の発電特性および光合成特性の評価	教授 渡邊 康之	㉖	
	・高誘電率材料薄膜の形成と評価 ・自然由来の低誘電率薄膜の形成と応用探索	准教授 王谷 洋平	㉗	
	・諏訪圏から新しいエネルギー産業創出へ。大学発ベンチャー ZUKU.tec のご紹介 ・安心・安全に活用できる蓄エネルギー技術	准教授 小川 賢	㉘	
	・宇宙のはじまりを探る電波望遠鏡装置の開発 ・宇宙に存在する謎の物質「ダークマター」の電波による探索実験	准教授 桜井 雄基	㉙	
・高周波電波の低損失伝送路「導波管」の開発研究 ・宇宙電波望遠鏡用受信機システムの開発と観測的研究	准教授 中島 拓	㉚		
・永久磁石同期型ベアリングレスモータの高速回転時の磁気支持力の解析	講師 菊地 寿江	㉛		
共通・マネジメント 教育センター	・ECR イオン源のプラズマ分光法	教授 武藤 英	㉜	
	・超伝導体の理論研究 ・トポロジカル物質の理論研究	准教授 小林 伸吾	㉝	
	・カオス力学系における時間の矢 ・人的資本経営に資する企業の対応 ～福利厚生制度と従業員の気持ちとの関係～	講師 大久保 健一 講師 江淵 剛	㉞ ㉟	
産学連携センター	・可視光センシングによる牛肉熟成度判定技術の開発	特任教授 橋元 伸晃	㊴	

デジタル医工連携 研究部門	・薄膜デバイスを応用した筋厚・硬度測定技術、ウェアラブル機器の研究開発 ・ドローン物流システムによる医薬品供給システム（フルリモート医薬品供給システム）	⑳⑶
防災・減災 DX 研究部門	・災害を未然に防ぐための産学官民連携による地域防災の構築 ・古老の教えから学ぶ河川みまもり DX の確立（その 2） ・山岳観光資源における防災と運営促進する入山届システムの開発	㉟⑶
宇宙エコロジー 研究部門	・宇宙産業応用を目指す低温磁気センサーの技術開発と実用化検討 ・土壌微生物の資化特性を活用した土壌活力評価システムの開発と土壌改良剤への展開 ・機能性ナノ粒子の植物体内動態の解明と効率的農業および栄養素取り込み技術への応用 ・諏訪地域における宇宙技術交流フォーラム開催に向けた企画・準備	㉟⑶ ㉟⑶
地域イノベーション 研究部門	・いちご自動収穫機の研究開発と実証実験の実施 ・科学的技術を活用した諏訪圏の火災安全・安心社会の構築に関する基礎研究 ・ドローン空撮と自動センシングデータの無線通信収集によるスマート農業	㉟⑶ ㉟⑶
AI・データ サイエンス研究部門	・NIRS 分析を用いた運動中の危険予知行動に対する優劣判定手法の構築 ・IoT による熟練作業者の作業工程見える化と AI による品質予測および技術伝承支援システム構築に関する研究 ・地域農業に活用可能な新規農業の機械学習による探索手法の開発 ・WLP-DX：スマート農業推進に向けた野生動物被害防止 DX	㉟⑶ ㉟⑶ ㉟⑶
新規事業創出・ アントレプレナーシップ	・研究者と実務家の対話から新産業創出へと繋ぐ学際的研究プロジェクト	㉟⑶